

腹話術への取り組み

樋 口 誠

Report on the Practice of Ventriloquism

Makoto HIGUCHI

キーワード：腹話術、腹話術の歴史、腹話術の技術

1. はじめに

腹話術とは寄席の一つで、唇をなるべく動かさず、本人の口以外のどこか別のところから声が出ているように思わせる話術である。外国では1人の演者が男女の声を使い分けたり、小鳥や動物の鳴きまねをする、日本でいう〈ものまね〉の芸まで腹話術ショーに含めることがある。腹話術は英語で ventriloquism と呼ばれ、ラテン語の〈腹 venter〉と〈しゃべる loque〉に由来する。昔は文字どおり胃で発声すると考えられていたが、現在では声帯以外の器官で発声することはできないとされている。一般的には人形の後ろに手を入れて、人形の口を手で開閉しながら、自分は唇をほとんど閉じたまま喋る形式をとり、腹話術を演じる人を「腹話術師」と言う。

腹話術に取り組むにあたって、経験のない私は、テレビでいっこく堂の芸を見たことがあるぐらいで、深く理解しているわけではなかった。腹話術は、「人形を使いながらすべての役を一人で演じる。そしてメルヘンの世界を創り出し、見る人の心を動かし、感動を与えることが出来る。」と福大介氏から聞いてはいるが、実際のところ、腹話術に欠かせない人形すら触ったこともないのに、ただ見る立場ではなく演じる立場としてどう進めていけばいいのか、という基本的なところから私の研究は始まった。

2. 腹話術の歴史

(1) 海外

もともと腹話術は、古代において、呪術や占いの一部として、神秘的な力をアピールするために用いられていた。また、聖書にも腹話術に関すると思われる記述がみられる。紀元前5世紀頃のギリシャの聖職者エウリクレスは、ほとんど唇を動かさずに声を発することができたとされている。

中世になって魔女狩りが行われるようになると、腹話術師たちも迫害の対象となった。この時代の腹話術師としてはケントの聖処女として知られるエリザベス・バートンが挙げられる。彼女は19歳のときに占いの力があることを自覚し、腹の中からの声を使ってお告げを行っていた。キャンタベリーの司教であるトマス・クランマーによると、彼女の声は酒樽から出てくるようだが唇は動かなかったという。1584年にイギリスのレジナルド・スコットは『Discovery of Witchcraft』（『妖術の開示』）を出版した。この本は魔女狩りによって無実の人が迫害されるのを阻止するために出版されたもので、奇術の方法などが紹介されているが、その中に腹話術がトリックであることも暴露されている。

時代が進むと徐々に腹話術は娯楽としても楽しめるようになる。1624年にフランスのリシュリュー枢機卿が雇ったコレ、1655年にイギリスの宮廷で腹話術を披露していたファニクスなどの腹話術師が挙げられる。

1661年には、バチカンの司書であるレオ・アラティウスが『De Engastrimthyo Syntagma』『De Engastrimtho Dissertatio』という腹話術に関する論文を書いた。

18世紀頃、ロンドンの鍛冶屋サミュエル・ハニマンが腹話術の能力を使っていたが、金儲けや呪術のためではなく、いたずらの目的で演じていた。1714年9月には、クラブで石炭商のトマス・ブリッテンを腹話術を使って脅かし、数日後には死亡させてしまった。しかし、ハニマンがこの件で罪に問われることはなかった。この時期の腹話術師としては他にトム・キング、ジェイムズ・ビクタ、ジョン・クリンチがいる。これらの人々はショーとして腹話術を見せていた。

腹話術のショーで人形を使うアイデアを初めて考案したのはオーストリアのバロン・フォン・メンゲンと考えられている。1750年、彼はショーのときに人形を使い、人形の声を出しているときに人形の口を動かすことによって本当に人形がしゃべっているように見せた。また、彼は1770年には腹話術の方法を書簡に記した。

その後も多くの腹話術師が舞台上で活躍している。また、奇術と腹話術のコラボレーションもみられるようになる。1800年、ジェイムズ兄弟（ヴァルとフィッツ）は、ヴァルが奇術でフィッツが腹話術と役割分担をして演じた。ルイ・アポリネール・クリスティーン・エマニュエル・コントやジョージ・サットンも奇術師でありかつ腹話術師である。ジョージ・サUTTONは機械仕掛けの人形を使い、人形がしゃべっているときに口を自動的に動かした。また、1833年に『腹話術論』を出版したが、これは腹話術師が腹話術について書いた最初の本となる。

シカゴ出身の腹話術師エドガー・バーゲンは、人形のチャーリー・マッカーシーとともに、1930年代から1940年代にかけてラジオ放送で大きな人気を得た。チャーリーの漫画や玩具が商品化され、さらに1938年には『紹介状』として映画化されている。またチャーリーはサンフランシスコの一日市長となったこともあり、『タイム』誌では歴史上最も有名な人形と評されている。

(2) 日本

日本には古く『八人芸』があり、これが腹話術の一種ではないかと言われている。江戸時代の末期になって見世物に『河童』というのがあって、人形のカップが人間と話をしたと伝えられている。しかし、これはチューブの伝声管をカラクリとして用いて話をしたもので厳密な意味では腹話術ではない。

日本で腹話術を最初に行ったのは、昭和15年頃に活躍した川田義男（ミルク・ブラザーズ）、喜劇役者であった古川ロッパ、だと言われている。ただし、彼等は司会や漫談や漫芸の中に、短い時間だけ腹話術を入れたに過ぎず、彼らの芸はハプニングの珍芸と言った領域を出なかったと言われている。

本格的に腹話術の人形と会話をして、寄席演芸の中に、腹話術一本立ちのものとして、堂々と立ち上がったのは、花島三郎（元芸術協会所属）だ。その後に三遊亭小金馬（現在の金馬で落語協会）、それに春風イチロー（芸術協会所属）が寄席の高座から、落語や漫才の中に入り、色物としての本格的な芸として実演して、現在に至っている。諸々の寄席芸の中で、一つの地位を占めようと努力した花島三郎の苦労苦心は、関係者達の間では有名であった。腹話術が寄席の芸能として、海のものか山のものか全くわからない時代に、彼は苦労しながら一本の芸として腹話術を独立させた。

一度に数多くの人達に腹話術を見せたのは、日劇の澄川久（第1回日本音楽コンクール声楽部門最優秀受賞のバリトン歌手）や萩野康久だろうと言われている。当時は大変な人気だった。澄川はバリトン歌手としての頭音発声を用いて上手に人形操作をした。萩野康久は持前の器用さを巧みに利用して正に名人芸を見せた。

第二次大戦後は腹話術がとても盛んになって、漫才からの転向組にはアザブ伸が出た。コンビだった彼の奥さんのラブと死別してから人形を相手に腹話術をやっていた。この他にプロの腹話術師として上手だったのは、映画がトーキーになり、弁士の仕事がなくなって腹話術師に転向した木下ぼく児がいる。大塚文雄、アマチュアとしてプロ

以上の柳沢よしたねは一つの時代を作りあげた功労者の一人である。谷天朗、耕田実、海野いちろ、荒木邦夫、名和太郎その他沢山あげられるが、プロの腹話術師はおそらく四十人以上いたと言われている。それぞれ個人個人の持ち味と、その対照となる変わった人形の性格で、演出は一人一人大分違いがあった。上品な教育用腹話術から、そうでないキャバレー酒席用の腹話術までいろいろあった。

戦前から戦後テレビが普及するまでの時期、腹話術は寄席の色物として、歌謡ショーの司会芸として、さらには学校巡回、農村慰問、祭りなどのイベントにおいて活躍した。現在、日本にはプロとして活躍している腹話術師の数は少ないが、全国には約5,000人の愛好者がおり、伝道活動、老人ホームや保育園等各種施設への慰問活動が行われている。また、腹話術は娯楽としてだけでなく、幼児教育、交通安全教育、栄養教育、障害児教育など教育の分野でも広く活用されている。

こうした腹話術をエンターテインメントへと押し上げたのは、誰もが知るいっこく堂である。声が遅れて聞こえる衛星放送ネタや術者と人形の声の入れ替わるネタなどで、腹話術の魅力を世間にアピールした。いっこく堂は、唇を動かさずには発声できないとされていた破裂音、つまりマ行・バ行・パ行の音を実に見事に発声している。

3. 腹話術の魅力

腹話術の魅力はどこにあるのか。腹話術の技術はリップコントロールだけではない。人形の目線の変化、まばたき、手の動き、足の組替え、ボディーの動きにより人形の人間的リアルさを表現する。ごこちない動き、おおざっぱな動きではダメである。術者の豊かな表情をプラスして、テンポのいい面白い会話をつくらなければならない。ボケとツッコミ。間髪入れない人形の突っ込み。瞬間的声の切り替えが会話に味をつける。こうした会話の中で、観客を巻き込んで術者・人形と観客との間に通いが生まれ、人形主導型の腹話術の三角関係が成立し、観客は人形が人格を持った生き物として受け入れ、会話を楽しむ。

4. 福大介『腹話術入門』を参考に、腹話術の基本をあげる

(1) 「声の出し方」

腹話術では、口・唇・顎の筋肉を動かさずにしゃべるのであって、完全に唇を閉じているわけではない。母音の「イ」を発音する程度に唇は開けられている。マ行、バ行、パ行といった唇破裂音（動唇音）は唇をいったん閉じないと普通は発音できないため、こういった音を含む語句はなるべく用いないように台詞を考えたほうがよい。例えば「パパとママ」という語句はマ・パという唇破裂音を含むので、「お父さんとお母さん」に置き換えた方がやさしくなる。また、どうしても使わなくてはならない場合は、マ行をナ、ヌイ、ヌ、ネ、ノ・パ行をタ、ティ、トゥ、テ、ト・バ行をダ、デイ、ドゥ、デ、ドの音で代用するなど、唇破裂音の部分だけを別の似た音にかえることもある。熟練すれば、上の前歯や舌を上下の唇の代わりとして用いることにより、唇を動かさずに唇破裂音を発することもできるようになる。

(2) 「立ちづかい」

注意：大きい会場では後ろの客席や横の客席からも見えやすいように立って演技する。

①術者は左手の手のひらに、人形の両太ももを持つ。

（人形のお尻を持つと、人形の足が下へたたりと下がってしまう。）

②術者の右手で人形のグリップを持つ。

③人形の首は、胴体から少し出す。

（首を胴にのせないように、また抜けすぎないようにする。）

④人形を持つ高さは術者の目線と人形の目線の位置で決める。

・子供の人形の場合→術者より人形の目線がやや下

・大人の人の場合→術者と人形と同じ目線

⑤人形の位置は、出来るだけ術者の右横に並びハの字型になる。

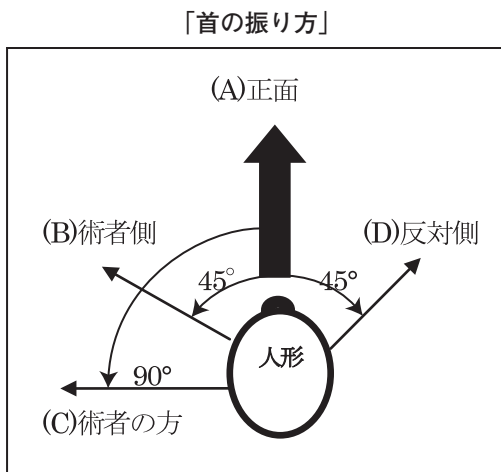
（おなかの前にT字型に持つのは良くない。）

(3) 「座りづかい」

注意：高い舞台がある場合は、術者が立つとますます高くなるので客席が椅子であっても腰掛けて演技する。

- ①術者は客席の方向に右斜めに座る。(椅子を斜めに置いておくと、座りやすい。)
- ②椅子には深く座らぬようにして少し前で演じる。
- ③猫背にならぬよう気をつけ、背筋を伸ばして演じる。
- ④術者左足の上に、右足を交差して組む。
- ⑤術者の左足太ももの上に人形を座らせる。
- ⑥術者の左手は、決して人形の下に入れず、フリーにしておく。左手は自由に使い、人形の手や衣装をなおしたり、姿勢を直したり、小物を持ったり、指を指したり、オーバーなジェスチャーに使ったりする。
- ⑦組んでいる右足を左右にスライドしたり、右膝を上げたりして人形の高さを調整する。
- ⑧術者と人形はハの字型に並んで演技する。

(4) 「首の振り方」



- ①「(A) 正面」を向く
人形が何もしゃべらない時の基本方向
- ②「(B) 術者側」を向く
人形は短い会話の終わりに (B) を向いて、すぐ正面に戻す。
- ③「(B) のレッスン」
会話の途中でも「(B)」に向き、最後にも「(B)」に向く。
- ④「(C) 術者の方」を向く

何回も (B) が続いた時に、時々 (C) 方向を入れる。強調したい時。

⑤「(D) 反対側」を向く

人形が比較的長い台詞を言ってる途中に向く。決してしゃべり始めや、しゃべり終わりに向かない。

(5) 「舞台演出の心得」

①舞台への登場・退場

- ・腹話術の場合は上手から登場し下手へ退場するのが理想。
- ・下手から出る場合は人形の背中を見せぬように術者の前に抱く。

②立ちづかい・座りづかいの区別

- ・舞台のないところ、また舞台がなく低い場合は座りづかいはしない。

③人形の操作

- ・演技で台詞を言う時のみの操作ではなく、登場で幕から顔を出した瞬間から退場して幕にはいるまで操作・演技をしていること。
- ・人形を舞台の上に置いたまま他のことをしてはいけない。

④人形の背中

- ・縦一直線に開ける。広く開けない。

⑤子供の夢をやぶらない

- ・首を抜いたり、背中を見せることは子供の夢を碎いてしまう。

⑥マイクの使用

- ・客数が少なくともマイクを使用すること。

5. 腹話術の実践と課題

腹話術についていろいろ調べていく中で、本部を神戸に置き全国組織で活動している「全日本あすなろ腹話術協会」にたどり着き、継る思いで門をたたいた。本協会の理事長である福大介氏にお会いして、お話を聞く機会を得た。

福大介氏が腹話術の指導を快く引き受けてくださり、少し先が明るくなったように思えた。ここから私の腹話術師としての修行の日々が始まった。まずは発声練習からである。術者と人形の声を使い分けるための練習だが、まず、術者の話し方が

はっきりとした口調で話さないと人形との区別がつかなくなり、相手に伝わらない。次にな人形の声は術者の声からかなり高い声を使って会話しなければいけないが、なかうまくい声が出てこない。やっと自分と違った声が出せるようになったが、次に人形操作で、目、口、首振りの操作で感情表現を出さないといけないとなると、うまくいかず益々落ち込んでしまった。うまく出来ない自分との格闘が始まり、腹話術の奥の深さが身にしみた。

腹話術を実践してみて、今後の課題が多く上げられる。腹話術師として観客を引き込まなければならぬ。観客が興味を持つ内容でなければ腹話術として成り立たないのである。観客の年齢層に応じた、話題選びや、言葉使いは必須である。ネタを組み立てる前に対象となる年齢層が、今、興味を持っている事柄などリサーチしておかねばならない。また、感情表現、内容の工夫に加えて、腹話術の中に歌や手品を入れたりすると観客の反応が良いことがわかった。以上のことを念頭に置いて、今後はすべての年齢層に楽しんでもらえる腹話術の実践に取り組みたい。

<謝 辞>

本研究を進めるにあたりご指導いただいた「全日本あすなる腹話術協会」理事長福大介氏、会長福小介氏にたいして深く感謝いたします。

参考文献

- 1) 岩波書店編集部 『私の定年後』 発行者・大塚信一 発行所・岩波書店 2000年
- 2) ヴァレンタイン・ヴォックス著、清水重夫訳『唇が動くのがわかるよ』星雲社 2002年
- 3) 福 大介 『腹話術入門』発行者・全日本あすなる腹話術協会自費出版 2004年
- 4) マーク・ウェイド著、清水重夫訳『腹話術のテクニック』池田武志監修自費出版 2004年
- 5) 花丘奈果 『腹話術入門』 発行者・百瀬精一 発行所・鳥影社、2005年